

「伝え合う力」の育成を重視した学習指導と評価の工夫・改善 ～自分の考えや思いを論理的に表現するための作文指導～

中山 郁子

I. はじめに

子どもたちに、豊かな表現力をつけて、自信を持たせたい。

話し合い、討論をしていると「～だと思います。～だからです。」というように、最後まできちんと話せない子が多い。「～だから～で・・・？」というように、最後が言い切れないので、だらだらとした話し方になってしまう。頭の中が整理されていないのに話しているから、まとめられないのではないだろうか。

自信を持って表現するために、まずはノートにきちんと自分の意見を書けるようにしたい。そして、周囲を納得させられる論理的で説得力のある文章を書けるようになることで、自信をもって表現できる子を育てたい。

この作文の研究を始めるにあたり、ある先生から「高学年は、友だちから学ぶことができる。」というヒントを頂いた。当時5年生を担当していた私にとって、この言葉が一年間の作文研究の大きな軸になり、「友だちから学ぶ」ためにどのような手だてが必要で、「友だちから学ぶ」ことでどう成長できるかを研究し実践しようと考えた。

II. テーマ設定の理由

1. 全国学力・学習状況調査（H28年度）から見える児童の実態

本校では、国語の各領域において、以下の項目が課題となっていることが分かった。

話すこと・聴くこと

- ・目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うこと

読むこと

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと
- ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと
- ・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること

書くこと

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること
- ・グラフを基に、分かったことを的確に書くこと
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら書くこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ローマ字で表記されたものを正しく読むこと
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと
- ・平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと

特に「自分の考えを明確にしながら書く」では、正答率が全国平均（52%）よりも10%以上下回り（41%）、無解答率も15%と高く、書くことへの苦手意識が感じられた。

無解答率の高さからも、「表現することに自信がもてない」児童が多いことが分かる。このことから、「自信を持って表現する」ための作文の技能の向上や、豊かな表現力の育成が課題になると考えた。

2. 平成29年度神奈川県教育課程研究会研究主題から

〈国語科研究主題〉

児童一人ひとりの言語活動を充実させ、
「伝え合う力」の育成を重視した学習指導と評価の工夫・改善

本年度の神奈川県の研究主題における「伝え合う力」の育成をめざすために、「作文指導を基礎に表現力を育成すること」「自分の考えや思いを論理的に表現するための技能を身につけること」に重点を置こうと考えた。

そこで、本研究のテーマを次のように設定した。

豊かな表現力を育てる国語科教育
～自分の考えや思いを論理的に表現するための作文指導～

本研究では、第5学年の「人との関わりの中で」「五年生ガイドをつくろう」という作文単元を中心にすすめた。しかし、国語科だけでなく様々な場面で「書く機会」を設けたいと考え、他教科における「書く指導」の実践も取り入れた。また、作文の単元だけでなく、日常的に「書く機会」を設けるための家庭学習での日記指導の実践も取り入れた。

3. 年間指導計画

国語科学習指導要領では、「書くこと」の指導事項として、以下のように示されている。

(5・6学年)

- ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。(課題設定や取材)
- イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。(構成)
- ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。(記述)
- エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。(記述)
- オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。(推敲)
- カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。(交流)

これを受けて、年間指導計画を以下のように設定した。

月	教材名	話聞	書く						読む	伝国
			ア	イ	ウ	エ	オ	カ		
4	はしる電車の中で								○	○
	お話を聞こう「クマよ」								○	○
	図書館へ行こう		○							○
	カニモトくん							○	○	○
	かなづかいの決まり									○
5	おすすめします、この一さつ	○								○
	原稿用紙の使い方									○
	「十秒」が命を守る		○						○	○
	インターネットを使って調べよう		○							○
	国語辞典で受け継ぐ言葉の文化									○
6	狂言「しびり」	○								○
	人との関わりの中で 言葉の構成		○					○		○
7	競争								○	○
	このあと、どうなる？		○	○					○	○
9	雪・土								○	○
	メディアについて考える	○								○
	本の分類を知ろう		○							○
	文の種類									○
10	洪庵のたいまつ				○				○	○
	グループ新聞		○		○					○
11	漢字辞典で受け継ぐ言葉の文化									○
	動物の「言葉」人間の「言葉」 情報を分類して整理しよう			○					○	○
	敬語									○
12	見学レポート			○	○	○				○
	写真と絵、どちらを選ぶ	○								○
1	声に出して読もう									○
	句会を楽しむ		○					○		○
2	五年生ガイドをつくらう		○					○	○	○
	コウノトリが教えてくれた					○			○	○
	動物とともに生きるために	○								○
3	言葉の由来									○
	さりさりと雪の降る日								○	○
	大造じいさんとガン					○			○	○

また、以上の教科書単元以外にも、書くことに慣れるための日常指導として、家庭学習で日記の宿題を出した。

Ⅲ. めざす子ども像

学習指導要領には、5・6学年の「B 書くこと」の目標が次のように示されている。

- (2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身につけさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

この目標と、本研究のテーマをふまえながら、めざす子ども像を次のように設定した。

- | |
|-------------------------------------------------------------------|
| ①豊かな表現力を身に付け、自分の思いを適切に伝えることができる子。
②主体的に学ぶ態度を身に付け、自信を持って表現出来る子。 |
|-------------------------------------------------------------------|

『①豊かな表現力を身に付け、自分の思いを適切に伝えることができる子。』は、子どもたちそれぞれが持つ考えや思いを、相手に正確に伝えることができるように表現の技能を身に付けることをめざした。また、『②主体的に学ぶ態度を身に付け、自信を持って表現出来る子。』は、①の豊かな表現力を身に付けることによって、自分に自信を持ち、友だち同士の対話や交流を通して、意欲的に学び、更に良い表現を身に付けようとする態度の育成をめざした。

Ⅳ. 研究仮説・手立て

めざす子ども像に迫るために、研究仮説として、次の二つを設定した。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------|
| 仮説1 日常の中で書くことが生活の一部になることで、表現力を身に付ける。
仮説2 友だちとの学び合いから、より良い表現を身に付ける。 |
|-----------------------------------------------------------------------|

めざす子ども像①『豊かな表現力を身に付け、自分の思いを適切に伝えることができる子。』に迫るために、

- | |
|--------------------------------------|
| 仮説1 日常の中で書くことが生活の一部になることで、表現力を身に付ける。 |
|--------------------------------------|

を設定した。

〈手立て〉

- ・語彙力を付けるために、辞書引き競争を授業の中に取り入れ、辞書を引く習慣を付けさせる。
- ・日常指導として、毎日の家庭学習で日記を書かせる。
- ・他教科においても、「書く指導」を取り入れる。
- ・作文の技能（文体、体言止め、倒置法、比喩、書き出しの工夫など）を指導する。
- ・「書き慣れること」と「書き方を知ること」の二本柱で作文指導を進める。

いつ書くか	目的	評価
A. 日常的に書く (日記、ノートなど)	書き慣れる 発想力、語彙力を育てる	意欲が継続する工夫 (コメントをつける、 学級で紹介するなど)
B. 国語科で書く (教科書の単元、 行事作文など)	書き方を知る 資質、能力を高める 考え方を身につける	技能(書き方)を指導・ 評価する

(平成28年度 座間市授業づくり研修講座より)

また、めざす子ども像②『主体的に学ぶ態度を身に付け、自信を持って表現出来る子。』に迫るために、

仮説2 友だちとの学び合いから、より良い表現を身に付ける。

を設定した。

〈手立て〉

- ・「誰に」「何のために」「どうやって」といった具体的な目的とゴールを示す。
- ・友だちの作文を読み合うことで、よりよい表現に気づき、自分のものにする。
- ・友だちの作文を推敲する。

V. 実践報告

1. 基本的な作文の書き方の指導

学年の始まりには、基礎的な作文の書き方を学ばせたいと考えた。そこで、「原稿用紙の正しい使い方」について、お手本の視写をさせた。作文の視写は、「書き方のルール」を知るために、低中学年に大変有効だと考える。教科書のお手本をそのまま書き写すことで文章の書き方がある程度身につけることができるからだ。

そして、高学年でも年に一度くらいは基礎的な「書き方のルール」をきちんと学び直す必要がある。今回、お手本の作文を書き写すことで、会話文の書き方、段落分けなどを学んだ。また、発展学習として会話文を少しアレンジした創作文（うそ作文）にも楽しく取り組んでいた。

【お手本】



【お手本の視写】



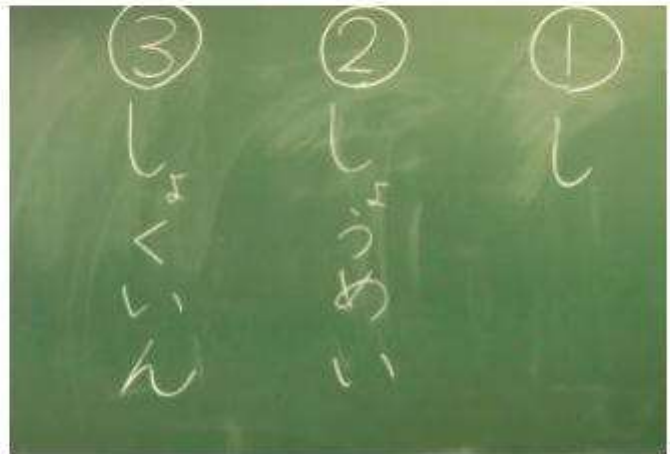
【うそ作文】 ※お手本と同じ形式で、登場人物やせりふを変える。



※村野聡氏「圧倒的な作文力が身につく！『ピンポイント作文』トレーニングワーク」明治図書より引用（許諾済み）

2. 語彙を増やすための辞書指導

国語の時間に2～3分程度で毎日辞書引き競争をしている。辞書をひく習慣をつけさせて語彙を増やすことが目的である。毎日辞書を開くことで辞書に慣れ、分からない漢字も「〇〇ってどう書くの？」と人に聞くのではなく、自分で調べる習慣がついてきた。



3. 「日常的に書く」ための日記指導

昨年度担任していた5年生は、国語の授業が週に5時間ある。その中で、漢字も読み取りも書写も学習するので、作文だけにそれほど多くの時間をとることはできない。しかし、「たくさん書くこと」が、書く力を育てるのには不可欠である。そこで、学年で相談して毎日の宿題で日記を出すことにした。子どもたちは、漢字の書き取りや計算問題の他に、毎日120～300字程度の日記を書き続けた。始めは、120字を合格ラインにしていたが、毎日書いているうちに書くことに慣れてきて、200字、300字と書ける子が増えてきた。そこで1月からは、200字を合格ラインにした。

ただその日の出来事を書いているだけでは、「〇〇ちゃんと〇〇をして遊びました。楽しかったです。」というような文章の繰り返しになってしまう。また「書くことがない。」「思いつかない。」という困る子も多く、「先生、お題を出してください。」とたびたび懇願された。そこで、授業で学んだことや最近のニュースなどで自分が考えたことなど、日記の題を指定して書かせるようにした。

【日記の題（例）】

- ・熊本地震について（自分にできること）
- ・オリンピックのエンブレムどれを選ぶか
- ・新しい班について
- ・わたしのクラブ紹介
- ・ラグビーのふりかえり
- ・家庭科の授業で学んだこと
- ・ソーラン節の練習ふりかえり
- ・騎馬戦の作戦
- ・もしも自分が座間小の校長先生になったら
- ・TPPについて（自分の考えも）
- ・こんなロボットあったらいいな
- ・流れる水の働き（実験で分かったこと）
- ・ヘチマのおばなとめばなについて（観察から分かったこと）
- ・テスト勉強（大事なところをまとめる）

- ・ 比例の文章題をつくる（式と答えも）
- ・ 割合の文章題をつくる（式と答えも）
- ・ 会話文を入れて書く（内容は自由）
- ・ 敬語を使って書く（内容は自由）
- ・ 慣用句を入れて書く（内容は自由）
- ・ 4つの段落に分けて書く（内容は自由）
- ・ 中学校では、私服と制服どちらが良いか（自分の意見と理由を書く）
- ・ 朝ご飯は、パンとご飯どちらが良いか（自分の意見と理由も書く）
- ・ 風邪を予防するためにしていること
- ・ 男と女、どちらが得か（自分の意見と理由も書く）
- ・ 来年度の委員会へのいきごみ
- ・ どんな6年生になりたいか

日記は書き慣れるための日常指導なので、細かい書き方の指導はしない。誤字脱字もあまり厳しく点検しなかった。（正しい漢字を赤で書いておく程度。）ただ、教師のコメントをつけて意欲を継続できるようにしたり、良い内容のものはクラスで読み上げたり、学級便りで紹介したりして、発想力や語彙力を共有できるようにした。

【子どもの日記】

Handwritten diary page with a grid. The text is written in vertical columns. The title is "9月1日の日記へそらの花". There are some drawings and a small illustration of a flower.

Handwritten diary page with a grid. The text is written in vertical columns. The title is "1月19日の日記パンとご飯". There are some drawings and a small illustration of a flower.

Handwritten diary page with a drawing and text. The title is "めいばの先はどうしてしめ、ているんだらう?". There is a drawing of a person and some text.

Handwritten diary page with a grid. The text is written in vertical columns. The title is "朝ごはん". There are some drawings and a small illustration of a flower.

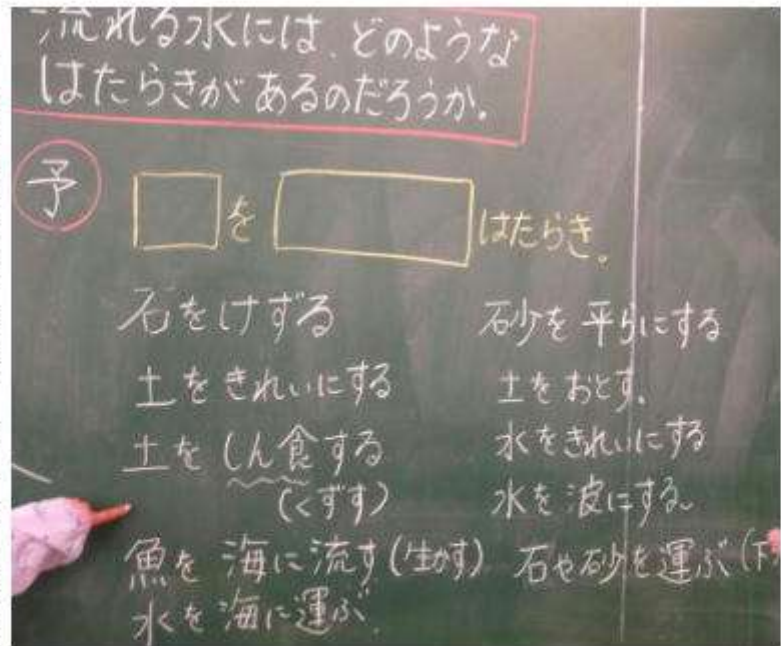
宿題は、1ページ1点のポイント制にした。累計ポイントが100点になった子には賞状を作ってあげて、クラスで表彰式をする。これが励みになり、300点、400点をめざす子もいてライバル意識も働き、頑張る子が増えた。



4. 他教科での作文指導「流れる水の働き」(理科)

理科の授業に関連して「短作文」の学習に取り組んだ。短作文とは、その名が示すように400字程度の短く書く作文である。一つの話題が短く収まる程度の分量が目安となる。例えば、発表会の招待状や、育てている植物の記録文、理科の実験結果の考察など、国語以外の教科でも様々な場面で書く機会を設定することができる。

私のクラスで毎日書いている日記が、ちょうどこの短作文くらいの分量になる。そこで、『3.「日常的に書く」ための日記指導』でも紹介したように、他教科の学習記録を日記に書かせてみようと考えた。

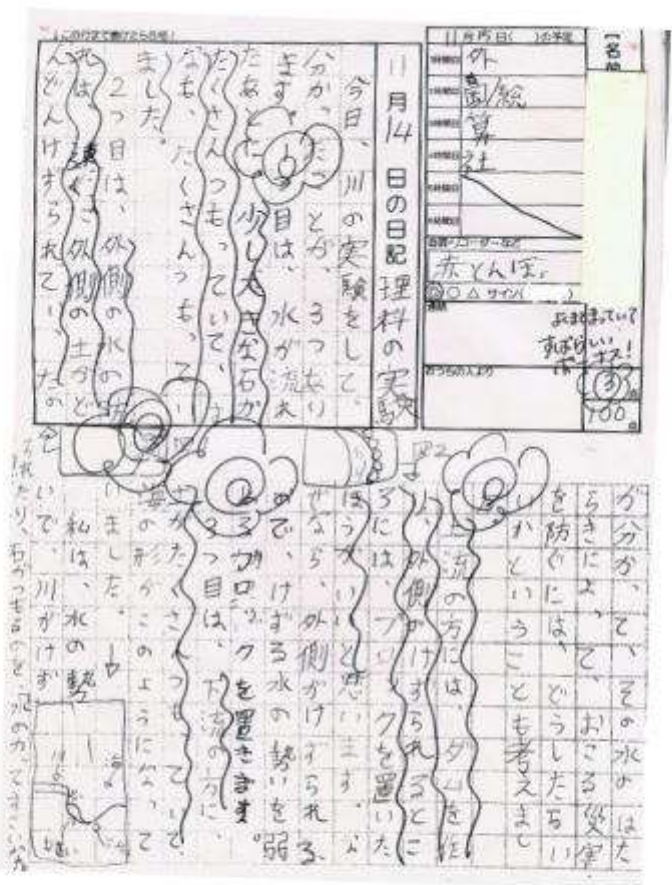


5年生の理科に「流れる水のはたらき」という単元がある。「流れる水にはどんな働きがあるのか？」を、予想した後、実験をする。実験といっても、砂場に川をつくり、水を流すだけなので、目的意識をきちんと持っていないと、子どもたちは「砂遊びして楽しかった！」で終わってしまいがちだ。そこで、実験の前に「今日の実験結果から分かったことを日記に書いてきてね。だから水を流すと川がどうなるかよく見ておくんですよ。」と話した。

次の理科の時間には、流れる水の働き（浸食、運搬、堆積）について詳しく学習した。そして、何人かの日記を読んで紹介した。ただの砂遊びではなく、きちんと理科の実験として考察ができた子どもたちの日記だ。これを読んで、「砂場に川をつくって楽しかったです。」などと書いていた子どもたちも「そうか、そういうことを書かなくてははいけなかったのか。」と気付く。そこで、もう一度「流れる水の働き」という題で日記を書かせた。

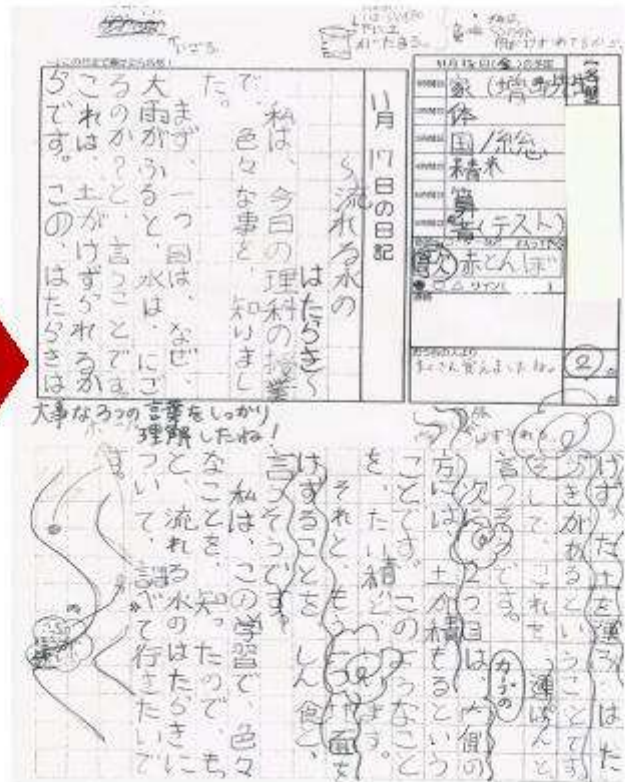
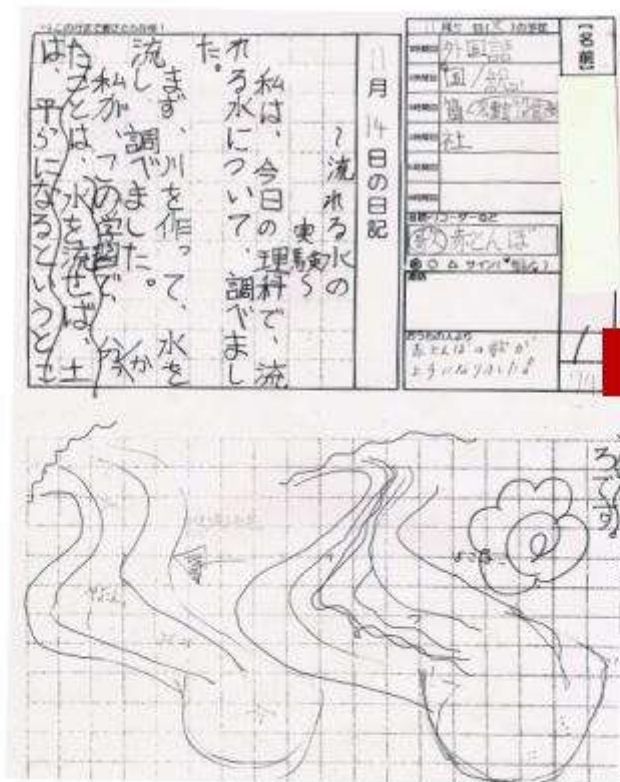
日ごろは、友だちの日記を読んでも「へえすごいな」と感心して終わってしまいがちだった。そこで、今回の実践では同じ内容をもう一度書かせるようにした。友だちの日記を読んで「こうやって1つ目は・・・2つ目は・・・と項目だてすると分かりやすいね。」「実験のあとは、結果を出して必ず考察をします。自分の考えもみんなは書けましたか？」などと、課題点を指摘し「みんなも、もう一度書けば〇〇さんみたいに書けるんじゃない？」と声掛けをした。

高学年になると、クラスメイトをライバルとして見ている子も多い。教科書のお手本を読んでもそれほど感心しないが、同じ教室で勉強している友だちが素晴らしい作文を書くと「自分ももっと書けるはず」と刺激を受ける。そうして友だちの日記と自分の理科のノートを見直して書いた2度目の日記には、どの子もそれなりのレベルアップが見られた。



【1回目の日記】

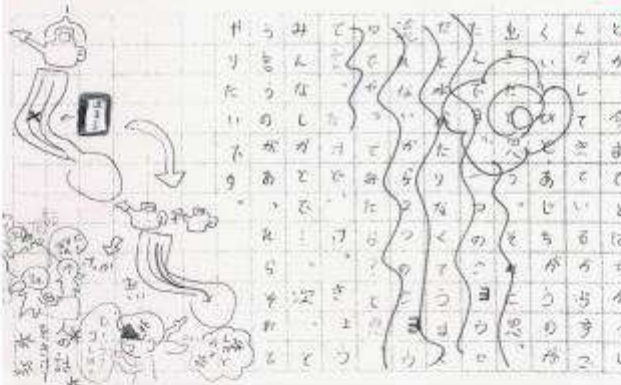
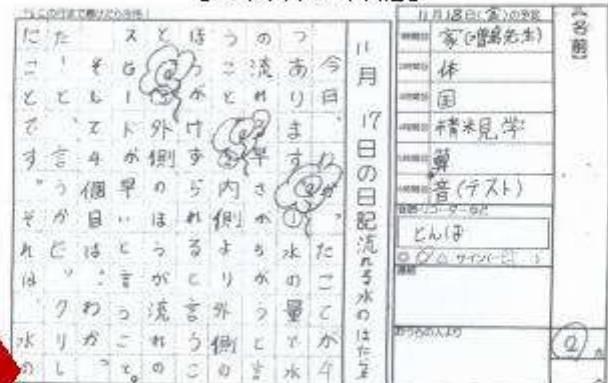
【2回目の日記】



【1回目の日記】



【2回目の日記】



授業で学んだことを日記に書かせると、「その子がその授業をどう理解したか」がよく分かる。つまり、日記で評価をし、次の授業を組み立てる参考にできる。そして、日記で評価をするためには、「この授業で何をばせたいか」「日記にどんなことを書いてきたら授業を理解していると評価するか」といった規準をあらかじめ設定する必要があり、教材研究も日記を意識してするようになった。

5. 「書き方を知る」ための作文指導

(1) 「人とのかかわりの中で」

5年生の1学期に「人とのかかわりの中で」という作文単元がある。「身近な人との関わりの中で心に残った出来事を作文する」となっている。今回は、全員が参加したキャンプを題材にすることにした。

ここでは、「書き出しの工夫」について学んだ。遠足や運動会など、思い出深い行事作文は、筆がよく進む。しかし、朝起きてから帰るまでの一日のすべてをだらだらと書き連ね、最後は「楽しかったです。」のお決まりの文句で終わるといったパターンに陥りがちである。「本当に伝えたいのはどこか」「いちばん印象深いのはどこか」を思い出させ、「書くことをしぼる」練習をした。

国語科学習指導案

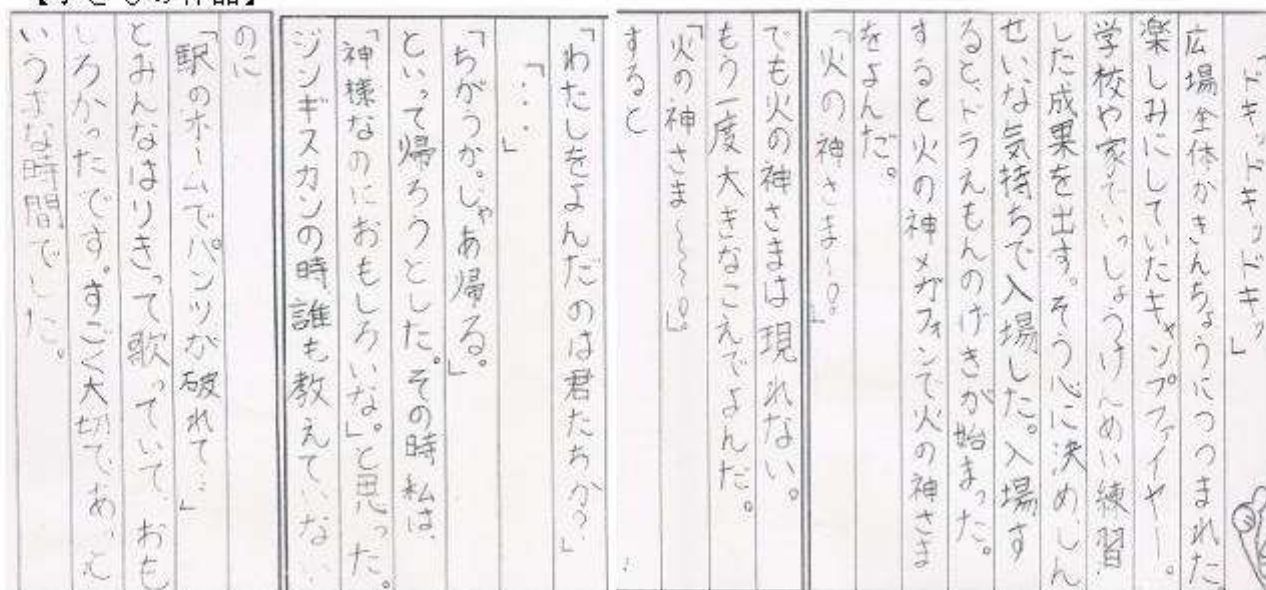
指導者 中山郁子

1. 日 時 平成28年 6月28日(火) 第2校時
2. 場 所 第5学年1組教室
3. 学年・組 第5学年1組 29名(男子16名 女子13名)
4. 単元名 事がらを集め、整理して書こう「人との関わりの中で」(本時は4/6)
5. 本時目標 読み手を意識して文章を読み直し、伝えたい出来事や気持ちが表現されているかに注意して推敲する。
6. 本時の展開

学習活動 (○)	教師の支援、留意点 (◎)
<p>○前時に書いたキャンプの作文(下書き)を読み返す。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">読者が続きを読みたくなるような、作文に書き直そう。</p> </div> <p>○読者に「続きが読みたい」と思わせる作文のポイントを知り、</p> <p style="margin-left: 20px;">①書きたいことを一つにしぼる。 ②クライマックスから始める。 ③会話文、思ったこと、周りの風景から始める。</p> <p>○自分のノートをもう一度読み返して、書き出しを推敲する。</p> <p>○書けた子から発表する。</p>	<p>◎隣同士でノートを交換し、読み合う。誤字などの間違いがあれば、その場で教え合う。</p> <p>◎児童の下書きから、手本になる所を抜粋して読み上げる。(キャンプの作文以外にも、普段の日記などで良いものがあれば取り上げる。)</p> <p>◎書き出しの3文ができたなら、一度教師に見せに来させる。良いものは、その場で声に出して読み上げ、他の子の参考にさせる。</p> <p>◎次回は、キャンプの作文の清書をすることを知らせる。</p>

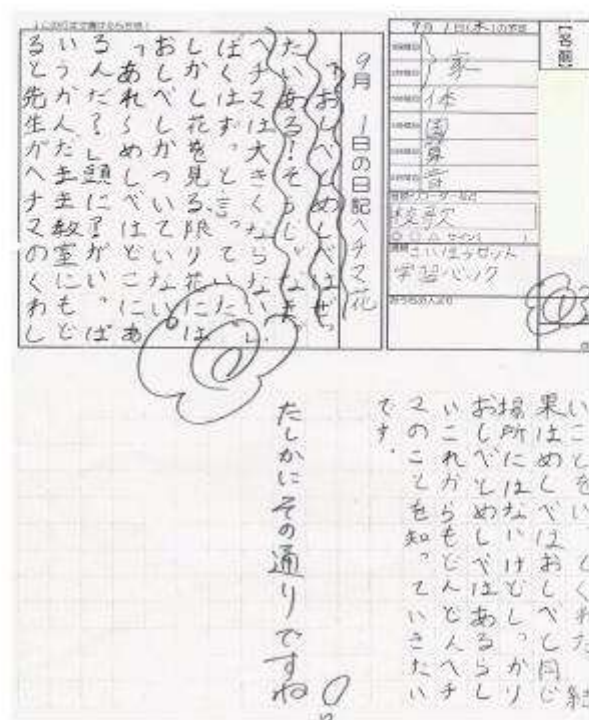
7. 評価 読み手を意識して文章を読み直し、伝えたい出来事や気持ちが表現されているかに注意して推敲することができたか。

【子どもの作品】



この学習の後は、日記でも書き出しを工夫して書く子が増え、表現方法に広がりが見えた。

【授業後の子どもの日記】



(2) 「5年生ガイドをつくらう」

作文指導は、目的意識（誰のため、何のために書くのか）を明確にすることが大切である。そこで、キャンプや運動会、遠足、日頃の授業や生活など、これまでに書きためてきた日記や作文を書き直し、「5年生ガイド」を作り、それを4年生に読んでもらうことにした。「4年生が読んだ時に『5年生になるのが楽しみだな』と思ってもらえるような作文を書こう。」と投げかけると、子どもたちは「どの題材にするか。」「どう書いたらいいか。」を熱心に考えていた。

国語科学習指導案

座間市立座間小学校
指導者 中山郁子

1. 日時 平成29年 1月26日(木) 第2校時
2. 学年・組・場所 第5学年1組 30名 教室
3. 単元名 事がらを集め、整理して書こう
「5年生ガイドをつくろう」(本時は5/7)

4. 単元について

(1) 単元観

本単元で扱う指導内容は、学習指導要領に以下のように位置づけられている。

B 書くこと(1)

- ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
- オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
- カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

また、学習指導要領の言語活動例では、

B 書くこと(2)

- ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

が示されている。このことから、単元を貫く言語活動として「友だちとの学び合いから、よりよい表現の仕方を身につける」ことを設定した。

「事がらを集め、整理して書こう」は、身近な人との関わりの中で、心に残った出来事を整理してまとめる作文単元である。まずは、クラス全員の共通の思い出であるキャンプの作文を書き、作文の書き方を学ばせる。その後、1年間をかけて様々な行事や思い出についての作文を書きため、それらをまとめた「5年生ガイド」を作る。4年生が読んだ時に「5年生になるのが楽しみだな」と思ってもらえるような作文を書けるようにしたい。そのために、友だちの作品を読み合い、よりよい表現の仕方をそこから身につけさせたい。

(2) 児童観

本学級では、毎日の宿題で日記を書かせている。自由に書かせることもあるが、「何を書いたらいいのか分からない」という児童も多いので、授業や行事のふり返りなどの課題を指定することも多い。(熊本地震について、調理実習の学び、理科の実験で分かったことなど)合格ラインの120字は、全ての児童が毎日書くことができ、それ以上書く意欲的な児童も多い。200字、300字と長い文章を書ける児童の中には、事実と意見を整理して上手にまとめられたり、豊かな表現で魅力的な文章が書ける児童も増えてきている。しかし、句読点を付け忘れる、習った漢字を使わずにひらがなでだらだら書いてしまうなど、基礎的な力が足りない児童も数名いる。どの教科でも同じだが、学年があがるにつれ学力の差が大きく開いていることが感じられる。しかし、「書くことが苦手」と感じている児童でも、キャンプや運動会など、楽しい思い出、印象的な出来事については筆がのり、意欲的に書こうとする態度が見られる。このことから、作文指導は「楽しく、印象的な出来事」を題材にすると効果的なのではと考える。

また、高学年になり、クラスの友だちをライバルとして意識するようになってきている。教科書のお手本を読んでもそれほど感心しないが、同じ教室で勉強しているクラスの友だちが魅力的な作文を書くと「自分ももっと書けるはず」と刺激を受ける。そして、友だちの語彙や表現を真似することで表現の幅が広がってきている。

「友だちとの学び合いから、よりよい表現の仕方を身につける」という単元を貫く言語活動を、良い日記を読み聞かせたり、学級便りに紹介したりする日頃の日記指導とも関連して効果的に行っていきたい。

(3) 指導観

子どもたちは、キャンプや遠足の作文など、一年間を通して様々な生活作文を書きためていく。その中で、作文の基礎や豊かな表現方法について、少しずつ学ばせていきたい。教科書を使って授業の中で教えるだけでなく、クラスの友だちの日記や作文を読み合い、その中から「分かりやすい書き方」「魅力的な表現」に気づき、自分のものにできたらと考える。そのために、作文の推敲は自分一人で行うのではなく、少人数のグループをつくり、その中でお互いの作文を読み合わせたい。また、推敲の結果をクラス全体で共有することで作文の技能として押さえたいポイントを全体的に指導していきたい。

【指導のポイント】

「分かりやすい書き方」	「魅力的な表現」
<ul style="list-style-type: none"> ①句読点をつける。 ②習った漢字を正しく使う。 ③主語と述語をはっきりさせる。 ④文体を揃える。(敬体、常体) ⑤事実と考えを区別する。 ⑥接続詞を適切に使う。 ⑦段落を適切に区切る。 ⑧同じ言葉を繰り返さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①会話文や思ったことを工夫して書く。 ②風景を描写する。 ③実況中継のように書く。 ④クライマックスからはじめる。 ⑤例えを使う。(暗喩、直喩) ⑥慣用句、ことわざを使う。 ⑦文末を工夫する。(体言止めなど)

また、グループの推敲では「直すところ」だけでなく「良いところ」「真似したいところ」にも気付かせたい。友だちの作文の良いところを認め合うことで自己肯定感を育て自信を持って表現できる子どもを育てたい。

5. 単元目標

身近な人との関わりの中で、友だちに伝えたい心に残った出来事を思い出して整理し、表現を工夫してまとめる。

6. 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・身近な人との関わりの中から心に残った出来事や感想をまとめ、自分の感じたことを友だちに伝えようとしている。
書く能力	・心に残った出来事を友だちに伝えようという目的をもち、自分が選んだ出来事について、思い出したことを整理して、文章をまとめている。 ・伝えたい事柄を明確に表現する方法を考えて、工夫して書いている。 ・友だちの文章から、表現の良さや組み立てで良いと思うところを見つけて、自分の作文に生かしている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・文章の構成や仮名遣いなど、書き方に注意して文章を書いている。

7. 単元の指導・評価計画（7時間扱い、本時は5時間目）

時	学習のねらい（☆）と主な学習活動（・）	関	書	言	評価規準
1	☆学習の見通しを持つ。 ・これまでに書きためた作文をもとに、4年生のために「5年生ガイド」をつくることを知る。	○			身近な人との関わりの中から心に残った出来事や感想をまとめ、自分の感じたことを友だちに伝えようとしている。
2	☆よりよい表現を知る。 ・友だちの作文を推敲することで、よりよい表現を知り、自分の作文に生かす。		○		友だちの文章から、表現の良さや組み立てで良いと思うところを見つけて、自分の作文に生かしている。
3	☆読み手を意識した作文を書く。 ・これまでに学んだ表現の工夫をもとに、4年生が読みたくなるような「5年生ガイド」を下書きする。		○		伝えたい事柄を明確に表現する方法を考えて、工夫して書いている。
4 5 6	☆よりよい表現を身につける。 ・友だちの「5年生ガイド」の下書きを推敲し、よりよい表現を意識して書き直す。		○		友だちの文章から、表現の良さや組み立てで良いと思うところを見つけて、自分の作文に生かしている。
7	☆5年生ガイドを清書する。			○	文章の構成や仮名遣いなど、書き方に注意して文章を書いている。

8. 本時の指導（5時間目／7時間扱い）

(1) 目標

読み手を意識して文章を読み直し、友だちの文章から、表現の良さや組み立てで良いと思うところを見つけて、作文を推敲することができる。

(2) 実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿と、目標実現をめざすための手だて

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した児童への具体的な手だて
書く能力	読み手を意識して文章を読み直し、友だちの文章から、表現の良さや組み立てで良いと思うところを見つけて、自分の作文だけでなく、友だちの作文についても的確に推敲することができる。	読み手を意識して文章を読み直し、友だちの文章から、表現の良さや組み立てで良いと思うところを見つけて、作文を推敲することができる。	まずは誤字脱字などの基礎的な内容を点検させる。次に前時までに共有した作文のポイントの一覧や友だちの意見を参考にして、推敲させる。

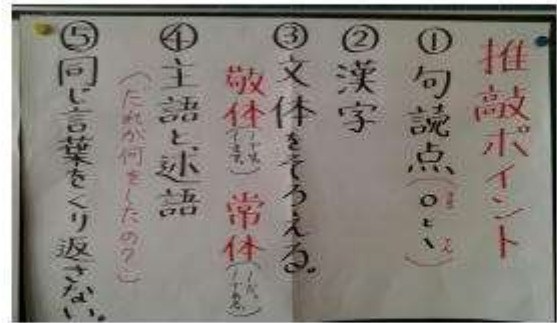
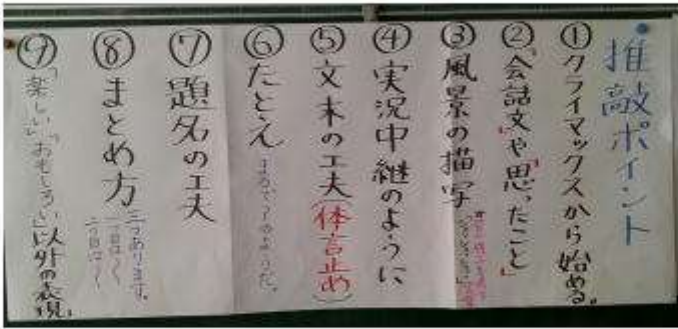
(3) 展開

学習活動 (○)	教師の支援、留意点 (◎)
<p>○漢字スキル⑨⑩に取り組む。(常時学習)</p> <p>○辞書引き競争をする。(常時学習)</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	
<p>「5年生になるのが楽しみだな」と4年生に思わせる作文を書こう。</p>	
<p>○これまでに学習した作文のポイントをふり返る。</p> <p>○前時に書いた「5年生ガイド」の下書きを読み返す。</p> <ul style="list-style-type: none">・3人組になり、友だちの下書きのコピーを読み合う。・ポイントの例を参考に、良いところには花丸を付け、改善点は青で書き込む。・3人組で、良かったことと直したい所を話し合う。 <p>○全体に推敲の結果を発表する。</p> <p>○3人組や全体での話し合いを参考に、自分の作文を書き直す。</p>	<p>◎作文のポイントについてこれまでにまとめたものを掲示する。</p> <p>・分かりやすい作文にするポイント (例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">①句読点を付ける。②漢字を使う。③文体を揃える。(敬体か常体か)④同じ言葉を繰り返さない。⑤一文を短くする。</div> <p>・読みたくなる作文にするポイント (例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">①クライマックスから始める。②会話文や思ったことを工夫して書く。③風景を描写する。④実況中継のように書く。⑤例えを使う。</div> <p>◎次回は「5年生ガイド」の清書をすることを知らせる。</p>

ここでは、「推敲の仕方」を学んだ。自分の下書きを読み返すだけでなく、少人数のグループを作り、友だちの作文を読んで推敲をさせることにした。また、推敲の結果をクラス全体で共有することで作文の技能として押さえないポイントを全体的に指導した。

また、グループの推敲では「直すところ」だけでなく「良いところ」「真似したいところ」も見つけるように声かけをした。友だちの作文の良いところを認め合うことで自己肯定感を育て自信を持って表現できる子どもを育てたいと考えている。

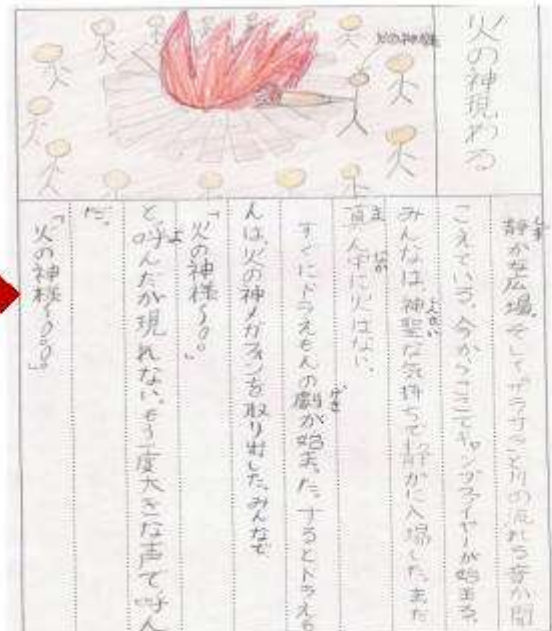
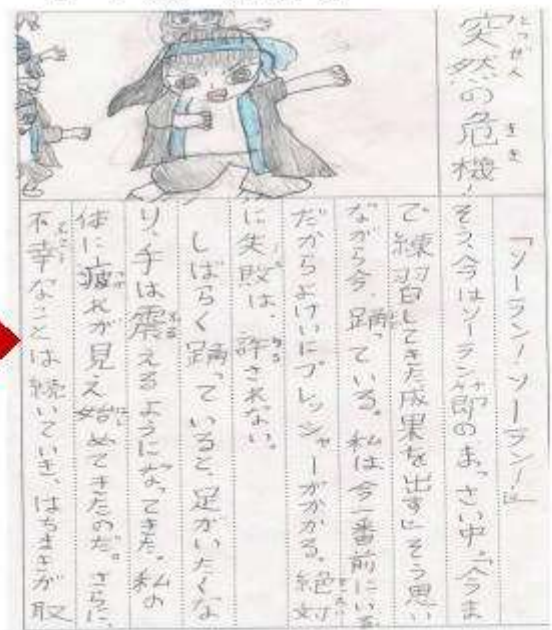
【黒板に推敲のポイントを掲示する】



【作文の推敲】

良い所、真似したい所は赤鉛筆、直したい所は青鉛筆で書き込む。

【できあがった作文】



VI. 成果と課題

1. 成果

(1) 継続的な指導の大切さ

毎日の日記で、書くことには大分慣れてきた。国語の授業で書き方の指導をした後は、言われなくても日記の中にその技能を取り入れる子が出てくる。良い日記をクラスに紹介すると、それをまた真似して書く子が出てくる。お互いに刺激しながら、毎日繰り返し書くことで少しずつ書く力につながっていると感じる。

また「書き慣れること」を目的に始めた日記指導だったが、他教科とも関連して題材選びを工夫することで、子どもたちに「論理的な書き方」を学ばせる機会になることが分かった。特に理科や社会では、授業で学んだことをもう一度ふり返ったり、自分なりの予想を書いたりすることで、授業の過程の形成的評価に役だった。今後も、論理的な表現力を育てるために、子どもにとっても教師にとっても根拠がはっきりとして分かりやすい題材を精選して日記指導を続けていきたい。

(2) 友だちの作文を読みあう意義

誤字脱字などの簡単な推敲は、子どもたち同士でできるようになってきた。自分の間違いはなかなか気づけないが、友だちの間違いにはすぐ気づける。そして、教師や親に指摘されるより素直に受け入れられるようだ。

「日記や作文の課題を出すと、教師の添削が大変だ。」とよく話題になるが、この方法ならば教師の負担も減り、また子どもたちも友だちの作文から多くを学ぶことができる。

構成や表現の工夫など少しレベルの高い推敲は、まだまだ難しい。「順番を変えてみたら?」「『楽しかった』以外の表現はないかな?」など、教師が投げかけてみてもなかなか変化が見られなかった。しかし、次に作文を書く機会に友だちの作文から学んだことを取り入れて書くことで表現に広がりが増えた子が増えてきた。教科書の手本よりも自分に近い友だちの文章の方が、身近に感じられ「これなら自分も書けるかも」と意欲づけになった。

(3) 自信を持たせ、自己肯定感を高める作文指導

作文や日記をクラスで紹介する時、名前を言わずに私が読み上げていた。「恥ずかしいなと思う時もあるかもしれないから、名乗らなくてもいいですよ。名乗っても良い時だけ手をあげてください。」と話していた。学年の始めの頃は、自分の作文が読まれても名乗らないことがよくあった。しかし学年の後半には、ほとんどの子が自分の作文だと名乗り出るようになった。手を挙げた子を見て「え～あの子が!」とみんなが驚く場面もあった。普段積極的に発言しない子も、文章表現でなら自分の思いを素直に表現できることもある。手本として作文を読み上げられたり、友だち同士の推敲で花丸(真似したいところ)をたくさんつけてもらったりすることで、自信を持ち、授業中も発言できるようになってきた子もいる。作文や日記をお互いに読み合うことが、技能の習得だけでなく、子どもに自信を持たせ、自己肯定感を高める一助になっていると感じる。

2. 課題

(1) ポイントの整理

豊かな表現力をつけるために指導のポイントを整理するのを感じた。指導のポイントが、学ばせたい技能と推敲のポイントにもなる。授業で掲示していた「推敲ポイント」は、これまでに学んできたものを羅列しただけだった。いくつかの段階に整理して、「今日はここまではできるようにしよう。」「ここを推敲してみよう。」とポイントを限定したほうが取り組みやすいのでは、と授業を参観した先生からアドバイスをいただいた。

また、「作文の型(小説風、説明文風など)によって、推敲のポイントが変わってく

るので、推敲するグループも作文の型で分けてはどうか。」という意見もあった。
そこで、以下のように推敲のポイントを整理してみた。

ステップ①（基礎）	ステップ②（発展）
①句読点をつける。 ②習った漢字を正しく使う。 ③主語と述語をはっきりさせる。 ④文体を揃える。（敬体、常体） ⑤カッコ「」を正しく使う。	①事実と考えを区別する。 ②接続詞を適切に使う。 ③段落を適切に区切る。 ④同じ言葉をくりかえさない。 ⑤題名を工夫する。

ステップ③（小説風な作文）	ステップ④（説明的な作文）
①書くことを絞る。（クライマックスから書く。） ②風景を描写する。 ③実況中継のように書く。 ④例えを使う。（暗喩、直喩） ⑤擬音語、擬態語を使う。 ⑥慣用句、ことわざを使う。 ⑦会話文や思ったことを工夫して書く。 ⑧文末を工夫する。（体言止めなど）	①問いの文、答えの文を明確にする。 ②読者に話しかけるように書く。 ③項目だてをする。（分かったことが三つあります。一つ目は・・二つ目は・・） ④反対意見を述べる。 ⑤予測される反対意見に対して反論する。 （～という意見もありますが・・・） ⑥まとめ方を工夫する。（このようにして）

ステップ①と②は、作文の基本なので、どの子どもも必ずできるようにしたい。ステップ③は、運動会やキャンプなどの行事作文、生活文で「これもできるとさらに良い」というポイントである。ステップ④は、紹介文や説明文などで分かりやすい文章を書くためのポイントである。このように、作文の技能としておさえるべき内容をこれから整理・精選して、子どもたちに意識させたい。

（２）教師自身の表現力を高める

「教師自身が、子どもたちにとって最も影響力のある言語環境である。」と教えていただいたことがある。普段の授業での話し方を振りかえっても、また日記のコメントを書く時、作文の推敲をする時、「例えば〇〇なんてどうかな？」と代案を示す時にも、私自身の表現力のなさに課題を感じた。子どもたちや保護者に「たくさん本を読んで、文を書いて、語彙を増やして、表現力を高めましょう」などと話をすることがよくあるが、まずは私自身にその必要性を感じる。これからも子どもたちと一緒に、多くの文にふれ、文を書き、一緒に考えることで、教師自身の表現力を高め、今後の指導に生かしていきたい。

【参考・引用文献】

- ・東京学芸大学准教授 中村和弘氏『論理的な文章を書く力を高める指導』講座資料
（H28年度座間市授業づくり研修講座より）
- ・村野聡氏『圧倒的な作文力が身につく！「ピンポイント作文」トレーニングワーク』
明治図書